スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

山梨県甲州市

自 治 体 名 ： 山梨県甲州市
担 当 課 名 ： 生涯学習課
電 話 番 号 ： 0553-32-5098

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	264㎢
人口	28,900人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	617人
部活動数 （運動部活動のみ）	22部活
地域クラブ活動数	3クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

甲州市における地域連携・地域移行の現状

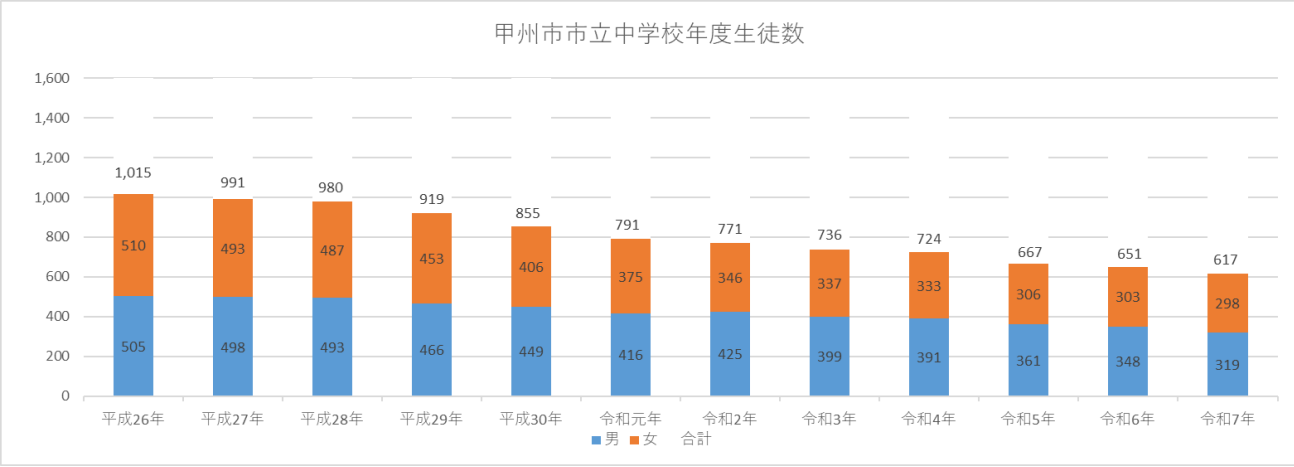
過疎化と高齢化、また全国的な傾向である人口減少及び少子化による市内中学校の統廃合が進んでいる。市町村合併した平成17年当時に市内に5校あった公立中学校は、現在3校である。

このように少子化の影響に対し、部活動種目の適正な維持と、段階的な地域移行を促進するため、当市ではコーディネーターの配置と推進委員会を設置し、令和5年度は市としての地域移行への方針を策定し、令和6年度は試験的な地域クラブの設立と移行準備、学校や地域への調整を行い、令和7年度には段階的な地域展開を進め、2クラブを追加した。

甲州市における地域連携・地域移行の課題

少子化の波は、部員数の確保困難による休部や、団体種目の部員数が足りず、既に他校と合同で部活動を行っている種目もあり、運動種目の適正な維持・継続が徐々に難しくなっていく状況である。

このため、市内中学校での運動部活動の整理や合同化を進めて、地域連携等により存続する種目と、地域展開への促進を図る二種類のパターンへの仕分けを行っていく方針であるが、どちらを進めるにも、人口減少が進むスポーツ人口も少ないため指導者確保が大きな課題となる。

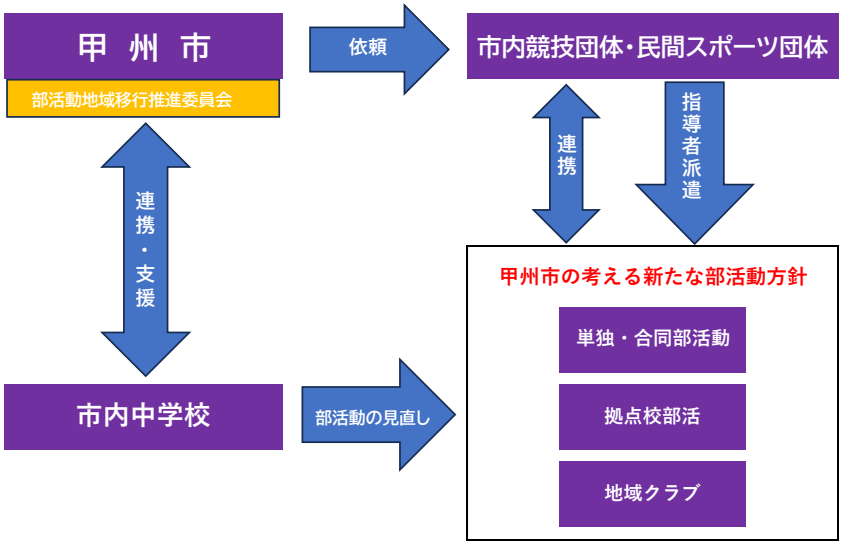


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（生涯学習課）

・運動部活動の地域移行を主体となり実施。コーディネーターを配置し、方針案の検討と策定及び調整

・甲州市部活動地域展開推進協議会の事務局として、市の方針を決めて実行

◉教育委員会（教育総務課）

・部活動現場での教職員、生徒との調整

・生徒、保護者への周知等

年間の事業スケジュール

令和7年6月	第1回甲州市中学校部活動地域移行推進委員会
令和7年7月	第1回実証事業生徒募集
令和7年 7月～8月	現部活顧問の競技ごとの意見集約
令和7年8月	実証事業の開始 第1回実証事業生徒募集
令和7年12月	第2回甲州市中学校部活動地域移行推進委員会
令和7年12月	第2回実証事業生徒募集
令和8年1月	新入生保護者説明会
令和8年2月	地域クラブ指導者への聞き取り調査
令和8年2月	第3回甲州市中学校部活動地域移行推進委員会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		3クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		3クラブ（3部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	17人	全体の運営スタッフ数	17人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
甲州市ラグビークラブ	地域クラブ	ラグビーフットボール	・月5～6回程度	13:30～16:00 16:00～18:30	1年生　2名 2年生　13名 3年生　4名	【前期】 令和7年7月31日～9月21日 【後期】 令和8年1月7日～2月4日	8人	8人	1,300円/年額	中体連：部活動 その他：地域クラブ
甲州市ソフトテニスクラブ	地域クラブ	ソフトテニス	・月4回	18:30～20:30	1年生　4名 2年生　2名	令和7年10月7日～令和8年2月18日	3人	3人	800円/年額	-
甲州市卓球クラブ	地域クラブ	卓球	・月4回	19:30～21:30	1年生　6名 2年生　6名	令和7年10月18日～令和8年2月21日	6人	6人	800円/年額	-

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 令和7年7月の1学期終業式前に3クラブの募集を行った。また、12月には2回目の地域クラブ（ラグビー部）の募集を行った。
- 令和8年1月に開催された新入生保護者説明会において、現在の状況説明を行った。

2.実証内容と成果

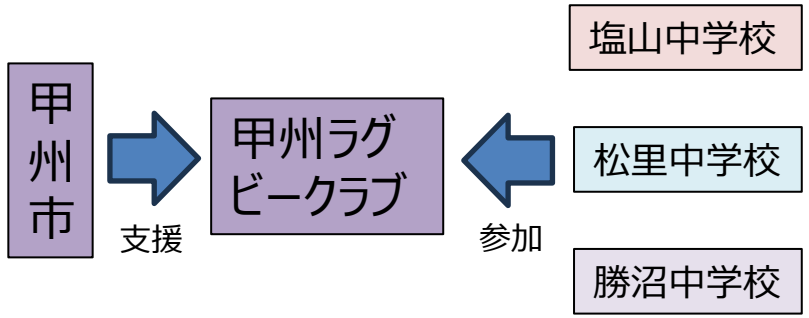
スポーツ庁

主な取組例

●甲州ラグビークラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ラグビーフットボール
運営団体名	甲州市ラグビークラブ
期間と日数	7月31日 ～ 2月4日 練習：月5～6回程度 練習試合・公式戦
指導者の主な属性	地元の指導者・市内中学校教諭
活動場所	塩山中学校・勝沼中学校
主な移動手段	自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	1,300円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●統括責任者　1名

役割：連絡調整、クラブ運営に関わることを行う

●主任指導者　2名

役割：練習内容の決定、指導者への連絡、練習に伴うことを行う

●運営補助者　2名

役割：クラブ員への連絡、事務に係ることと指導を行う

●指導員　3名

役割：生徒に対する指導を行う

2.実証内容と成果

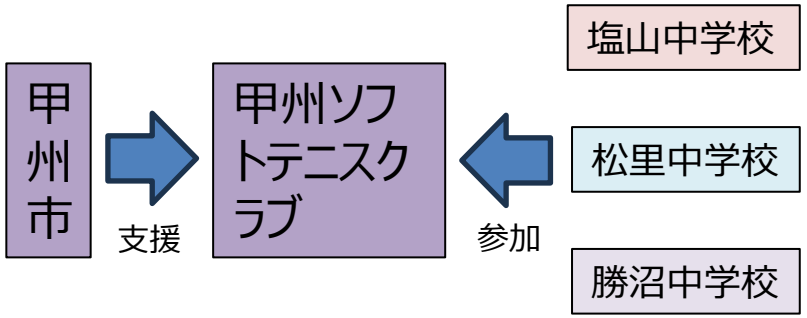
スポーツ庁

主な取組例

●甲州ソフトテニスクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス
運営団体名	甲州市ソフトテニスクラブ
期間と日数	月4回程度
指導者の主な属性	地元の指導者・市内中学校教諭
活動場所	甲州市塩山テニス場
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	800円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●主任指導者　1名

役割：練習内容の決定、指導者への連絡、練習に伴うことを行う

●指導員　2名

役割：生徒に対する指導を行う

2.実証内容と成果

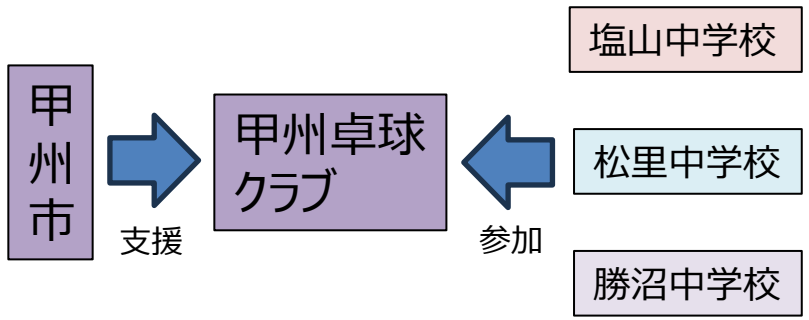
スポーツ庁

主な取組例

●甲州卓球クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球
運営団体名	甲州市卓球クラブ
期間と日数	月4回程度
指導者の主な属性	地元の指導者・市内中学校教諭
活動場所	塩山北小学校体育館
主な移動手段	自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	800円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●統括責任者　1名

役割：連絡調整、クラブ運営に関わることを行う

●主任指導者　2名

役割：練習内容の決定、指導者への連絡、練習に伴うことを行う

●運営補助者　1名

役割：クラブ員への連絡、事務に係ることと指導を行う

●指導員　3名

役割：生徒に対する指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○コーディネーター1名の配置
- 関係団体・市町村等との連絡調整等
- 運営団体・実施主体の体制整備や質の確保

○甲州市運動部活動地域移行推進委員会の開催（年3回）

取組の成果

○コーディネーターについては、昨年度から引き続き同じ方を任用したことで、事業に継続性を持って進められた。また、コーディネーターが元中学校教諭であったことから、各中学校との連携もスムーズに行えた。
○推進委員会に保護者代表を入れたことで、保護者や生徒の意見を聞くことが出来た。
○本年度も中学校各競技部から意見を聞き取り、各部活動の現状を把握することができた。今後の課題や方向性について認識することが出来て、事務局との関係構築となった。
○現在外部に指導をお願いしている部活動等には、市団体競技部から聞き取りを実施し、外部団体と地域クラブ化に向けての協議ができた。

今後の取組における課題

○関係者への周知と協力体制の構築
○指導者の確保

課題への対応方針

○体育施設利用のルール設定
○部活動地域展開の広報活動

コーディネーターの具体的な動きの実績

○関係機関との連絡調整
　学校との連携や教育委員会等との調整
○指導者の確保と育成
　人材の発掘、研修の実施、資格取得の支援
○学校グランド等の活動場所の確保
○生徒や保護者への周知とサポート
　新入学生、保護者説明会での説明実施
○他自治体の情報共有
○実証事業の連絡調整、活動補助等
○会議への参加
○各競技ごとの顧問へのヒアリング
○課題の分析と対応策の検討・提案
　継続性のある地域クラブ運営について検討・提案

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 昨年度まで、協力してくれていた外部指導者への説明と協力依頼。指導者に対して、日本スポーツ協会ワークブック、動画「ケーススタディから考えるグッドコーチング～グッドプレーヤーのさらなる育成を目指して～」を活用し研修を実施した。
- スポカルやまなしを活用しての指導者確保（マッチングなし）
- 各スポーツ団体に地域クラブへの協力要請。

取組の成果

- 今年度については、3競技17名の指導者が交代で指導を行えた。
  ラクビー部、女子ソフトテニス部、卓球部があり、それぞれが個々のレベルにあった基礎練習を実施した。
- 指導者には　日本スポーツ協会ワークブックと研修動画の視聴を依頼し、全員が視聴した。
  オンデマンド研修方法により指導者が受講しやすい環境であった。
- 指導者の年齢が20代～50代と幅広い世代であり、多くの意見や指導方法等の意見交換が活発に行えた。
  出された意見は、他の種目のクラブ指導員や、推進協議会とも情報を共有できた。

今後の取組における課題

- 各競技で中心的指導者の声掛けにより、協力いただいた指導者については、継続的に指導してもらえるような仕組みが必要である。
- 指導者からの意見としては受益者負担となることにより参加意欲の低下が懸念されるや、照明の点灯等、保護者の協力が活動の継続には必要等の意見が出された。
- 参加生徒の意欲を高めるための工夫が必要である。
  モチベーションの違いに苦慮しており、複数人の指導者の必要性を感じている。
- 施設予約等、事務的な面を担当する人材も必要と感じる。

課題への対応方針

- 指導者に対して、資質向上のための研修の受講や資格取得を促進する。来年度は複数回開催予定
- 指導者確保については市スポーツ協会等と連携し経験者を発掘して行く。
- 技術指導については市スポーツ協会等を連携し安全管理等を実施して行く。
  安全管理の確保の一つとしてスポーツ安全協会等の傷害保険への加入を検討して行く。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 市スポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進員、文化協会等の団体に地域展開の趣旨等を説明し、指導者としての参加呼びかけ。山梨県のスポカル山梨に登録されれている指導者がいたが活動日時等での条件が折り合わなっか為、不参加となった。

指導者の資格取得促進に向けた取組

- 資格の取得を目指す環境整備に向けた取組
  関係団体による指導者養成の研修等の活用を周知して行く。
- 資格取得資金の援助について導入済みの先進地の事例を参考とし制度を検討して行く。

指導者総数	17人
資格所持指導者数	5人
本年度資格を取得した指導者	1人

平日・休日の一貫指導に関する取組

- 学校部活動の顧問と地域クラブ指導者の連絡調整会議を定期的に開催し将来的には平日と休日を通しての指導体制づくりを検討して行く。
- 平日・休日における部活動指導員制度の更なる活用について、現在は二つの部活動で本制度が活用されている。
  まず、卓球部は令和3年度より男性の指導者1名を採用し休日、祝日の部活動を主に練習指導をして頂いている。活動日は土曜日の午前中の3時間指導頂いている。
  次に、剣道部は、令和7年度より男性の指導者1名を採用し休日、祝日の部活動を主に練習指導をして頂いている。活動日は土曜日の午前中の2時間指導頂いている。
  いずれの部活指導員も仕事をもっており休日、祝日を部活指導日としています。仕事をもっていることを鑑みると今後、平日の部活指導は、現実の可能性は低いと考えられ新たな指導者等の発掘の検討が必要です。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 関係団体との連携については、総会や専門部ごとの話し合いに参加し、情報提供を行った。また、教室や軽微なクラブの運営者に連絡を取り、連携を打診した。
- スクールバスの活用については、スクールバス導入初年度ということで教育総務課との調整ができなかった。

取組の成果

- 関係団体と連携をとることにより、部活動地域展開に関する理解をしてもらえた。
- 保護者が協力的で、練習や大会への参加への送迎を行ってもらえた。　地域公共交通機関を活用した生徒の満足度は〇%だった

今後の取組における課題

- 中高校生の活動について行っていない部が多く、新たに中学生の参加に二の足を踏む専門部が多かった。
- 　また、クラブとして活動するにあたって小学生から中学生までの範囲で、各年代で初心者から上級者までを扱うことの難しさを挙げる指導者も多かった。
- 中学校が統合し新たに導入したスクールバスを、クラブ員の移動に使うことには事務的に対応できなかった。また、参加者数も多くなく、保護者による送迎で事足りた。
- 保護者の送迎で迎えの時間に遅れる等、指導者が残らないとならない時があった。

課題への対応方針

- 当分の間は休日のみの参加になるので、現在の活動方針に沿って無理のない形で中学生を受け入れてもらう。
  隣接する市との広域化などにより新たな部活動を検討して行く。
  先進地の事例等も情報収集し多様な取組について検討して行く。
- スクールバスの活用については、参加人数の増加に対応するように準備を進めていく。そのことにより、保護者への負担を減らしていく。
  スクールバスの状況としましては、3台を運行しており休日に部活動に参加する生徒の送迎に運用しております。

地域公共交通との連携に関する取組

- スクールバスの活用についての検討
- デマンドバス等の地域クラブへの活用の検討。

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

- 地域における関係団体等の適切な役割分担と連携・協働
- スポーツ推進委員による関係団体等との連携に向けた取組

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 県主催の会議に参加し、各市町村の進捗状況を知ることができた。
- 統括コーディネーターが近隣の市との連携のために学習会及び情報交換会を2か月に一度開催した。

取組の成果

- 多くの市町村の現状を知ることができた。また、それを参考に関係団体等に話をすることができた。
- 規模は異なるがコーディネーター同士で、課題や取組の悩み等を共有することができた。

今後の取組における課題

- 近くの市でも、コーディネーターが設置されていない所もあり、連携にまで至っていない。
- 実際に多面的な形で活動する前に、市単独で創設できるクラブから取組を実施している。
- 市によって担当部署が違ったり、多くの部署が関わったりしている。さらに市の規模や方針の違いで前に進まないことが多い。
- 近くの高校で総合的なクラブの創設の話が出てきているので、協力する形で進めていきたい。

課題への対応方針

- 近隣の市すべてにコーディネーターが設置された時点で広域な連携をしていく。また、コーディネーターのみならず職員間でも事務を含めて情報共有を行う。
- まずは隣との2市で連携し進めていく方針とし対象となる種目の検討を進める。
- コーディネーター同士の話を各部署の担当に伝え連携を図る。
  庁内においても学校関連部署とスポーツ協会等を所管する部署とも連携を図る。

市区町村等を越えた取組

- 隣接する市との共同で地域クラブ活動に向けての話し合い
  山梨県主催の市町村担当者会でのグループディスカッションにて近隣市の担当職員と意見交換を行う。
- 活動場所や指導者の確保における複数の市による連携が今後検討が必要であるため引き続き取接する市のコーディネーター同士の話し合いによる情報交換を行う。
  スポーツ庁のホームページ等から先進地事例の取組の情報収集を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

- 児童生徒へのアンケートは昨年度の資料が残っていたので実施しなかった。
- ラグビー部は常時活動している生徒はおらず、主に冬季に開催される試合に合わせて、いろいろな種目を行っている生徒が集まって行ったため、9月頃から活動を始めている。
- 女子ソフトテニスについては、地域クラブとして大会等への参加を見据えた取組を行う。
- この様に生徒が多様な活動を選択できるよう、指導者の確保、複数の部活動の立ち上げ、中学校や、スポーツ団体等との連携などに解く組ました。

取組の成果

- 既存の部活動を休日にクラブとして活動しても、新たに体験したいという児童生徒がいない。
- 地域展開における地域クラブ数を着実に増加しており本年度末で3競技であり、来年度当初には1競技女子ソフトボールを開始する予定です。これまで取組んできた地域全体での体制づくりにより進めることが出来た。

今後の取組における課題

- 今年度は先生の中にラグビーの指導者がいたので、多くの生徒に声掛けを行い選手を集めることができた。今後学校にラグビーの指導者がいなくなったときに選手集めに課題が出てくる。
- 小学校の児童にアンケートを取るときに、種目を自由記述にしたところ、希望が多種多様になってしまった。
- 今後開始する競技には兼職兼業教職員と民間の指導者、両者の確保も必要と考えます。
- 広域化による受益者負担の各自治体ごと考え方の擦り合わせの必要性。

課題への対応方針

- 地域クラブへの参加生徒の募集については、市HPや市広報紙や、新入生説明会にて周知を行ってきた、更なる周知について他自治体に取組の情報を収集して行く。
- アンケートの種目については、項目を決めて選択制にしていく。現在は中学校には無い部活動についても地域クラブ化への可能性は検討する。
- 部活動としていない種目については、広報をしっかりとする。
- 兼業兼職教職員につては、山梨県が実施している人材バンクを活用して行く。
- 広域連携の取組により受益者負担のみならず地域格差や指導者不足の解消にるつげるため県主催の市町村担当者会へ積極的に参加する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 令和7年度は三つの種目とも月1,000円程度を参加費としている。低廉な参加費となっている要因としては、指導者への報償金を市で予算化し支出している。また、活動場所としては公共施設や中学校等のグランドを使用し使用料の免除や無償となっており、受益者負担の軽減に寄与している。
- 事務局費の統括コーディネーター人件費も同様に市で予算化している。

取組の成果

- 本年度については、地域クラブとして3クラブの実証事業を行った。参加費用の受益者負担については、参加者に極力負担が少ないように活動を行った。
- 登録料、保険料等個人が活動に必要な費用については、受益者負担として協力を得られたが、指導者謝金やこれまでの部活動では、負担しなかった経費については、市が負担した。

今後の取組における課題

- 今後の活動について、参加者及び保護者から理解を得るための説明会の開催や、チラシの配布等、周知への取組が必須である。
- 参加費用負担への支援は低所得世帯等は経済的に負担となることが思慮される現状では必要でる。
- 実証事業から地域展開後には受益者負担の上昇が予想されるため、公費負担についても近隣自治体の状況も検証する必要がある。
- 将来的、低所得世帯への支援について自治体間で格差が生じる可能性があると思慮します。

課題への対応方針

- イニシャルコストについては、導入時に必要な備品やユニフォームは、現状活用できるものを有効に活用していくことで、出費を抑えていく。
- ランニングコスト、特に人件費に係る部分については受益者負担を軸に仕組みづくりを考えなければ、持続的な活動は困難である。あわせて、参加者及び保護者への理解を深めていく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

- 本年度、地域クラブ方式によるラグビー部、卓球部、ソフトテニス部について実証事業を行った。イニシャルコスト（初期費用）として、考えられる備品購入等について、ラグビー部はこれまで各中学校で使用していた備品を流用し使用している。卓球部では、運営団体がスポーツ協会の卓球部であるため、市の備品として既に購入済で備品等は揃っている状況である。ソフトテニス部については、テニス場は公共施設を減免により利用できており、付帯するネット等は完備されている。共用の物品は以上の状況です。参加者の持ち物としてラグビー部ではスパイク、ヘッドキャップ、マウスガード、ショルダーガード、練習用上下ジャージ等です。卓球部ではラケット、シューズ、練習用上下ジャージ等です。ソフトテニス部ではラケット、テニスシューズ、練習用上下ジャージ等の購入費用が個人に掛かります。
- 参加生徒のスポーツ保険については、個人負担とした。

■ランニングコストの分析

- 指導者謝金（1,600円/1時間）
  - ラグビー：328,000円
  - 卓球：144,000円
  - ソフトテニス：60,800円
  - 合計：532,800円
- 指導者謝金を参加者33人で割ると一人16,145円の負担となる。今後地域クラブとして活動を始めると諸経費等の負担は大きくなることが予想される。
- 施設や設備等、導入後に維持し運用して行くための費用は毎月や、毎年掛かる費用や、数年に一度掛かる費用等多種あります。毎月掛かる主な費用として指導者への謝金が大きな割合となっているが現在、補助金により賄われおる参加費用負担が低額に抑えられています。また、年に1回から数回掛かる費用は参加者負担であり、大会への登録料等や、大会参加時の交通費等です。数年に一度の費用としてはボール代などです。運用には参加者の人数や指導者の人数等により増減する要因がありますが指導者は概ね安定した人数となっています。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

- 学校施設を使用する場合は、既存の社会施設利用のルールに従い行った。
  ラグビー部では中学校のグランドを主な練習場所としており施設利用の申請はい一般の利用者と同様としている。卓球部では小学校の屋内体育館を練習場所としており施設利用の申請は一般の利用者と同様としている。
- 施設の利用には減免措置を行い負担軽減を図った。
- クラブは一般利用者の申請状況も見ながら利用申請をしている

取組の成果

- 本年度の地域クラブ活動の3分の2を学校施設を利用して実施したことにより、生徒にとって充実した環境で練習に取組めている。指導者からも学校施設は練習場として良い環境との評価をうけている。
- 学校施設は夜間にも利用できる照明設備も完備している場合が多く、利用の範囲を広げることが出来る。

今後の取組における課題

- 学校施設までの用具の搬送が課題になった。
- 今後クラブとして活動する競技が増えてきた場合、平日活動している部活動の大会への参加前の活動では利用できないことも出てくる。
- 学校備品を使用するための鍵の管理等。
- 学校施設の使用に際して一般市民も競技に使用しているため今後増加した際には使用できない可能性もあるため関連団体との調整を検討する必要がある。

課題への対応方針

- 活動場所の学校の備品や消耗品を使えるようにしたい。また、保管場所を確保し保管用倉庫等の設置等も関係機関と調整を図る。
- 用具を中学校から借用している場合はその都度の搬送が必要となる。地域クラブで用具を購入し揃えるための関係機関と調整を図る。
- 普段使用している学校とは違う学校の使用も検討する必要があるが、移動手段について保護者にも理解と協力の周知を図る。
- 学校施設の警備システムのブロック化による使用範囲の設定等。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

- 地域クラブが安定し活動でできるように体育館やグラウンド等、地域展開関係団体に関しては施設利用料を免除した。
- 普段使用している学校とは違う学校への移動手段について保護者にも理解と協力の周知につて検討を行っていいる。
- 学校施設の警備システムのブロック化による使用範囲の設定等について関係機関と検討して行く。
- 学校施設を使用する場合は、既存の社会施設利用のルールについては地域クラブへも理解頂くため予約時等に丁寧に説明を行った。
- 快適に練習を行える環境を整えるため学校施設の設備を所管する部署へも点検等を依頼した。

用具使用・管理等における取組

- 学校体育施設等の夜間照明の活用。
- スポーツ協会の専門部の用具消耗品を借用することで、スムーズに活動ができた。
- 活動場所の学校の備品や消耗品を使えるよう関係機関と調整を図った。また、保管場所を確保し保管用倉庫等の設置等も関係機関と調整を図った。
- 用具を中学校から借用している場合は地域クラブで用具を購入し揃えるための必要経費等について検証を図った。また、購入に至らずにいる用具等については中学校への使用について理解をえるため学校長への理解を得るため依頼した。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 本年度は、実証事業2年目であり、季節部のラグビー部に加え、卓球部、女子ソフトテニス部を地域クラブ化して、多くの方々より協力や助言をいただき、クラブ運営をすることが出来た。また課題点も見えてきた。
- 実施事業の拠点校方式の女子ソフトボール部については、応募が無く残念であったが、次年度には地域クラブとして活動する計画への変更見直しに取組んだ。
- 生徒や保護者、部活動顧問への理解を深めるための活動も含め、地域クラブ募集チラシの配布を行った。チラシは紙にて全生徒へ配布し形に残し手に取り読んでもらえる方式とした。また、保護者へは学校の協力も得て電子データをデジタル送信もあわせて実施し周知方法の多様化を図れた。
- 新1年生保護者説明会で、部活動の状況説明が実施できた。デジタルではなく会場にて直接発信することは理解を深めて頂く際には有効であり今後も取組を継続する。
- コーディネーターが各地域クラブや各中学校を頻繁に訪問し情報共有を図るとともに課題や要望等、聞き取っており、顔が見える関係性を構築することができ有効となっている。

●成果の評価

- 女子ソフトボール部での課題が見えたことで、次年度の実証事業に向けて、早期の段階から新たな地域クラブの発足に向けて取組んでいく。
- 少子化による部活動が成り立たない中学校は本市のみでなく近隣市においても同様でもあることから、今後は平日の部活動も含め、広域化も視野に入れ地域に展開していかないとならない。
- 卓球部や女子ソフトテニス部では、4月に新入生の加入があり新年度ごとの応募が定例化してきている今後は1年生から3年生までが揃た形が継続される見込みである。

●今後に向けて

- 部活動の地域展開は、「生徒が将来にわたり、スポーツ・文化芸術活動を親しむ機会の確保・充実」が理念となっていることから、令和8年度からは甲州市部活動推進協議会の中の「専門部会」の積極的な活動のもと、市と教員、地域が一体に取組むべき体制整備をし、常に「生徒」が主体であることを念頭に置いて、甲州市としてとれる体制を整備するためにも、早期に市としての方向性を決めて、取組んでいくことが望ましい。
- 近隣自治体との広域的な合同部活動が今後は増加する見込みであることから、自治体連携も必要となってくる。
- 現在、中学校の部活動として野球部とサッカー部があり、この競技について休日の地域クラブの可能性の検証を継続し、将来的には実施を目指す。これについては、中学校の既存の部活動競技を地域クラブする方式で卓球部、女子ソフトテニス部が地域クラブ化していることから、本市においては、この方法により進めて行くことが実現性が有る。また、「中学校における部活動指導員の配置支援」のて実施している卓球部、剣道部についても一体的に考えているためより中学校との連携を進める。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

●関係者の声

●ソフトテニス関係者
- 参加者：学校の部活動では学べないスキルを学ぶことができた
- 指導者：同じモチベーションの生徒が多いのでやりがいがあった
- 指導者：平日の部活動との活動内容を合わせていくのが良いのか、生徒の希望のレベルに合わせたらいいのか考える。
- 指導者：少ない生徒数でも技術レベルの違いやモチベーションの違いがある。そのため複数の指導者が必要。
- 指導者：ボールなどの備品や練習場としている公共施設の鍵の管理を行う人材が必要。
- 指導者：コーチライセンスの保有がないため指導に自信が持てない。

●ラグビー関係者
- 参加者：普段の活動では体験できない種目を体験できた。
- 指導者：保護者、地域住民の方の協力があり、スムーズに活動することができた。
- 指導者：自身の仕事の関係があり練習参加できない日が多かった。
- 指導者：連絡や準備等などは指導者にも当たって頂いている先生方の協力無くして活動の継続は難しい。
- 指導者：参加する生徒の募集も中学校での先生方の声掛けが必要。
- 指導者：参加者に対して、安全対策のために厳しい指導も時に必要であり行うが辞めてしまう生徒もおり、指導方法の検討が必要。

●卓球関係者
- 参加者：やりたい仲間が集まってできてよい。
- 指導者：レベルの違う生徒を差別なく活動させることが難しい。
- 指導者：地域クラブになったことにより、以前の普及のためにやっていた活動より練習時間が短くなってしまった。

●学校関係者
- 生活に課題がある生徒にもクラブに参加する機会を与えて欲しい。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【甲州市中学校部活動地域移行推進委員会】



【甲州市ラグビークラブ新人戦】



【甲州卓球クラブの指導風景】



【甲州ソフトテニスクラブの指導風景】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
甲州市運動部活動地域移行推進委員会設置、検討開始	部活動整理→拠点校種目の選定、合同チーム種目の選定、地域移行種目の選定	学校現場との調整、拠点校と地域クラブ一部試験的開始	生徒、保護者への説明会開催	地域クラブ活動の一部試験的の推進	地域クラブ活動の拡大

- 年3回（7月、11月、2月）、推進委員会の実施。
- 部活種目の整理と地域クラブの体制整備に向け、甲州市としての基本方針について協議、決定をした。
- 令和5年4月コーディネーター2名を委嘱、7月「甲州市中学校運動部活動地域移行推進委員会を設置」構成は教育長を顧問、スポーツ推進審議会、スポーツ協会、スポ少、スポーツ推進協議会、総合型地域スポーツクラブ市PTA代表、市内中学校長、運動部活動顧問を中心に委嘱。
- 教員間の意識の相違に課題が見られた。

- コーディネーターが主体となり地域クラブ指導者への声かけ。
- 令和6年度に部活動整理を行う際、季節部であるラグビー部の指導者に声かけしたところ、興味を示したため地域クラブ設立の打診を行った。
- 創設前であるが、受益者負担の方法や地域クラブを統括する体制が決まっていないままでの方針決定となった。
- 部活動整理に辺り、現在活動中の部活動の地域クラブ化は、ハードルが高いため、季節部である種目から声をかけて実施への合意に到った。

- 市事務局で学校現場と児童・生徒・保護者向けの説明会を開催。
- 令和7年度から部活動整理等の開始に向けて、児童生徒保護者への情報発信と理解促進をし、地域クラブ活動の活性化につなげる。
- 甲州市の特性として、地域移行には、学校現場での意識差をなくすことの方が重要ではないかと考えるため、より密に連携を行える体制を構築する。

- 学校現場との調整により部活動の地域クラブ化の促進。
- 現状の部活動整理により、将来の地域クラブ化の足掛かりとする計画であるが、生徒数や顧問の専門性等、状況により移行可能な種目を見出すことも可能であると考え検討を行う。
- 現状の形での部活動に固執する教員も少なからずいるため、意識改革を行うかが課題である。
- 学校や顧問等と緊密な連携を取り計画外の種目にも地域クラブ化が可能な種目を探し出す。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域展開の推進に向けたロードマップ

